老上学区まちづくり協議会
まちづくり計画

令和 6 年 3 月

老上学区まちづくり協議会

第１章　まちづくり計画について

1−1　計画策定趣旨

平成 24 年 2 月 5 日、私たち老上学区において平成 22 年から設立準備をすすめてきた『老上学区まちづくり協議会』が発足しました。この協議会は、地域住民が主体となり、私たちがいつまでも住み続けたいと願う「ふるさと老上」を目指し、地域の豊かな自然や歴史、貴重な文化財を次世代に継承し、また、今後の予想される急速な人口増加を老上学区の、ひいては草津市の原動力と捉え、愛着と誇りの持てるまちづくりを推進することを目的としています。

この協議会活動の基本になる考え方は、「自分たちの地域は自分たちでつくり、まもる」ことです。老上学区が持つ独自の課題には、自らが継続して考え行動していく姿勢が求められています。

そこで、私たちの「ふるさと老上」を見つめ直し、今後、さらに愛着の持てる住みよい地域にするために、老上の将来像を創造し、その将来像を実現していくための手立てや方法を地域住民自らが３回のワークショップを通して、考え描きまちづくり計画を更新策定するものです。

1−2　計画期間

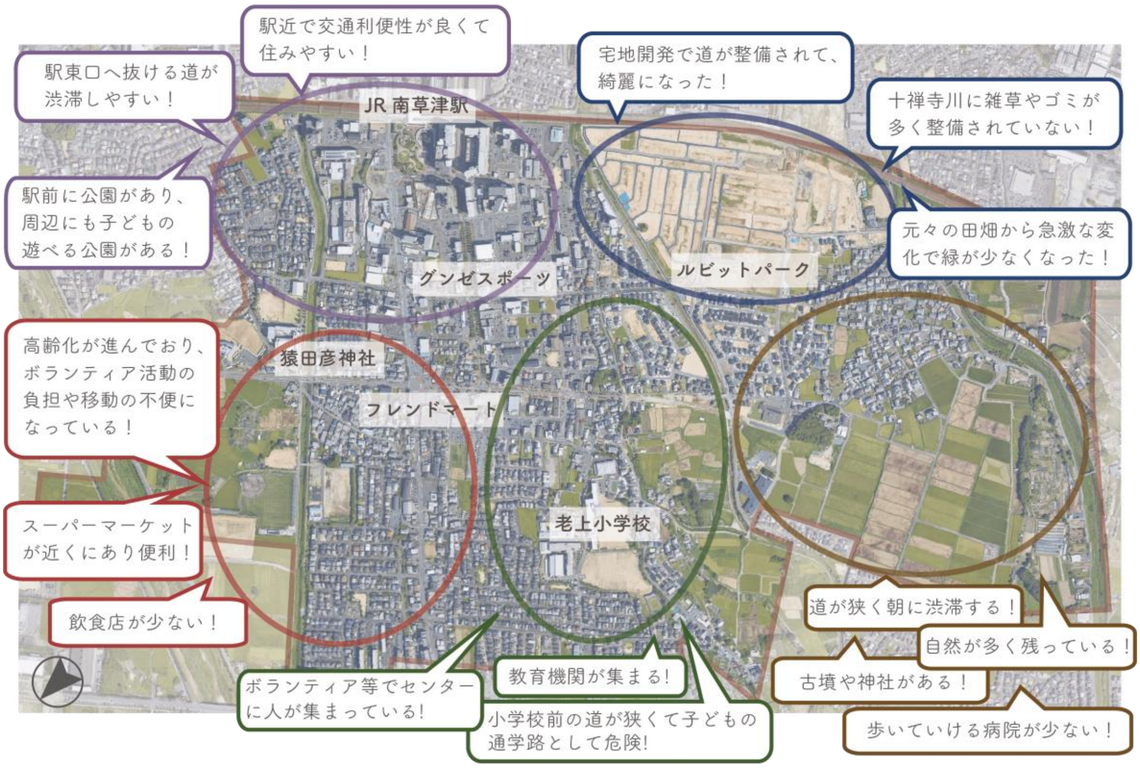
本計画の期間は **2024 年（令和 6 年度）～2028 年（令和 10 年度）**の 5 年計画としますが、その間の老上学区や草津市の状況、また国や社会情勢の動向を踏まえながら、柔軟に見直しを行うものとします。

第2章　老上学区の現状と課題

2−1　老上学区の現状と課題

全国的に少子高齢化が叫ばれる中、平成６年の南草津駅開業を機に老上学区では人口が急増し、その後の宅地開発により、令和６年３月１日現在、世帯数５５５５戸、人口は１２，３８４人で、高齢化率は１６，７％（草津市高齢化率２２．５％）平均年齢３９歳（草津市平均年齢４４歳）となっています。今後しばらく続く新たな宅地開発による若い世帯の増える地域と、高齢化と少子化の問題に直面する戦後に開発された町内会、更には町内会組織の無い駅前マンション群という、顕著なコミュニティ環境の違いが浮き彫りになってきています。また、コロナ渦における事業自粛の影響が、人々のコミュニティに対する意識や日頃の活動に現れてきています。

若い世帯が増えた老上学区において、将来の老上を担う若い居住者が「これからの老上のまちづくり」に参加できる働きかけや、きっかけ作りが急務であり、また、若い世代の増加に伴い、子ども達が健全に成長できる環境づくりも重要な課題となっています。また、近年の自然災害の発生とその甚大さ、また全国各地で発生する地震被害の発生状況をみると、災害弱者をどう守るか、防災対策をどう進めるかなど、今後「老上学区地区防災計画」を基に、将来に対するこれら不安を日ごろの活動で軽減できるような取り組みが必要となっています。



2−2 基本理念

都市化が進む一方、まだまだ老上には豊かな自然が残っています。この豊かな自然の中で、地域がはぐくんだ文化と歴史を大切に、安全・安心に暮らせる「ふるさと老上」でさらに愛着の持てるまちを目指します。

2−3 将来像

基本理念を踏まえ、計画を達成するため、将来像を掲げます。

みんなの手でつくる“活気”と“愛着”であふれるまち

第3章　まちづくり基本方針

3–1　将来の老上 ― 3つの柱 ―

　具体的な取り組みのために３つのまちづくりの基本方針を掲げます。

①　住まう：安心・安全に暮らせる

　学区内の道の狭さや交通渋滞、独居高齢者と子どもの多さといった暮らす面で、誰もが安心・安全に暮らせる環境をつくります。

住まう

安心・安全な環境をつくる

1　みんなが安心・安全・快適に暮らしができるまちづくり

●通学路や狭い道路で、定期的な見守りを行う。
●日々の移動手段の支援を行う。

2　子どもや高齢者を地域で見守るまちづくり

●子どもや高齢者と触れ合う機会を設ける。
●学校と連携して、地域で子どもを見守る。

②　交わる：地域コミュニティで集まることができる

　人との繋がりによる助け合いや地域活動の活性化を図るため、人と人が出会い、繋がる場所をつくります。

交わる

人と関わる場所をつくる

1　新旧の人と人との繋がりで助け合えるまちづくり

●定期的なイベント開催などで、人と人が出会える場を提供する。
●駅前広場が生活空間の一部になるような取り組みを行う。

2　同世代・異世代や「好き」なコトで繋がるまちづくり

●多様な興味で誰もが集まることのできるセンター運営をする。
●新たな興味・関心に出会えるイベントを開催する。

③ 伝える：地域活動と情報を知ることができる

生活や防災に関する情報や地域活動の内容、老上の歴史・文化を知り、老上の魅力の向上を図るため、情報の発信手段をつくります。

伝える

老上の情報を発信する手段をつくる

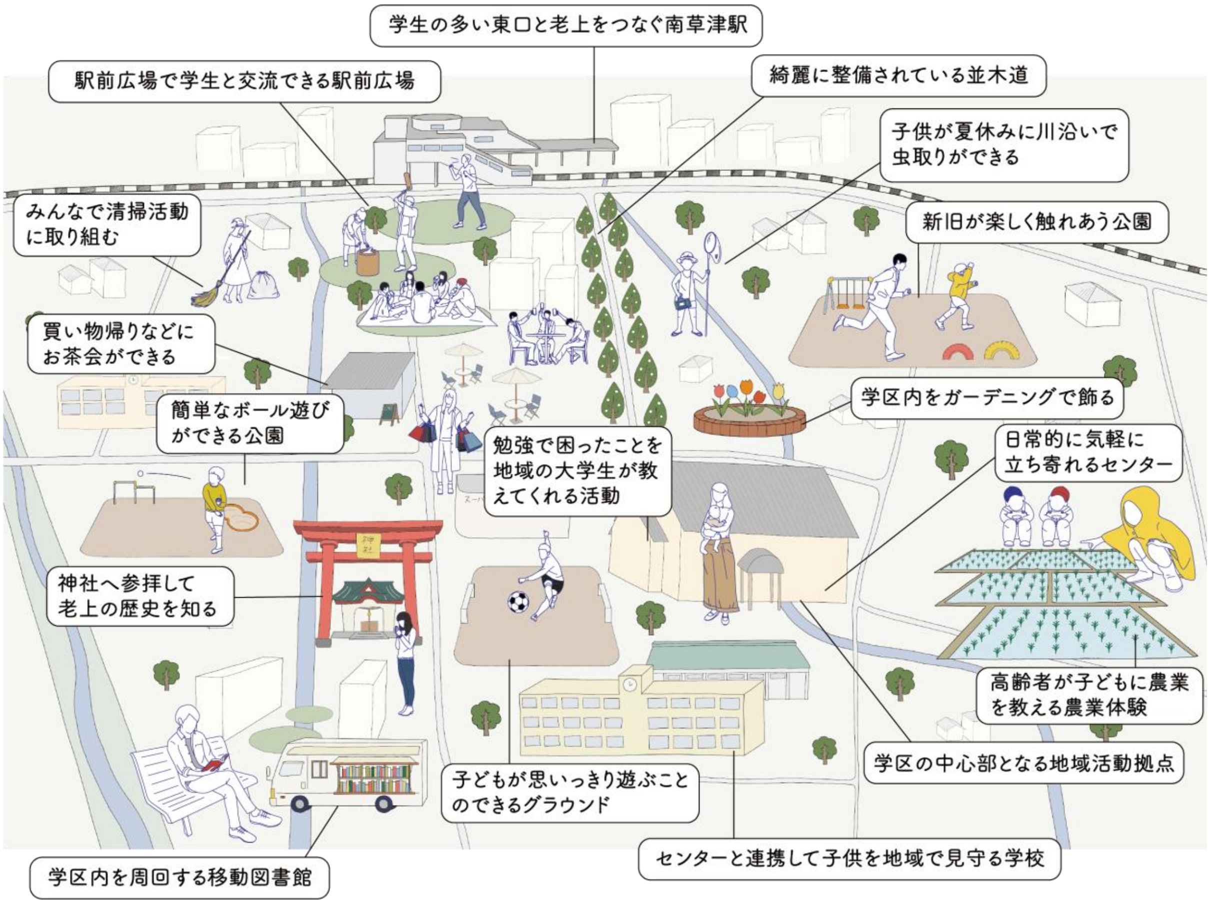
1 老上学区の情報を様々な媒体を使って発信するまちづくり

●地域住民の暮らしや防災に役立つ情報、災害時等の緊急情報を発信する。

2 同世代・異世代や「好き」なコトで繋がるまちづくり

●老上の歴史・文化を巡るまち歩きを開催する。
●老上の歴史・文化を活かした教育を充実させる。

3–2 将来の活動イメージ

ワークショップの意見や３つの柱を元に、将来の活動イメージマップを作成しました。「ふるさと老上」に向けて、“愛着”と“活気”があふれるまちのアイデアを盛り込んでいます。ただし、このマップは場所などを特定するものではありません。

将来の活動イメージマップ